




Company Profile
Hitachi Building Systems





株式会社日立製作所執行役常務
ビルシステムビジネスユニットCEO
兼株式会社日立ビルシステム
代表取締役 取締役社長

光富 真哉
Shinya Mitsudomi

私たちは、1920年代にエレベーターの研究開発を開始して以来、90年以上のビルシステム事業の歴史を有しています。日立グループの強みであるデジタル技術を先駆的に活用し、信頼性の高い昇降機や、高品質な遠隔監視・保全サービスなど、安全・安心・快適な都市生活を支えるソリューションをグローバルに提供しています。

2020年からの新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を契機として、社会のあり方や人々の生活様式が変容しています。ビル分野においても、感染リスク低減に向けた対策や、リモートワークの推進をはじめとする働き方改革など、さまざまなニーズ・社会課題が生まれ、新たな対応が求められています。一方で、気候変動を背景として、災害に対するレジリエンスの向上や、CO₂排出量の削減など、環境に対するニーズも高まっています。

先行きが不透明な時代となり、オフィスや住まいのあり方、そしてお客さまのニーズが大きく変化していくと考えられる中、私たちは、2021年4月に組織体制を大きく見直し、これまで以上にお客さまの声を速やかに取り込み、製品・サービスの開発・提供を行える体制を整えました。このたび日本国内で販売開始した標準型エレベーターの新モデル「アーバンエース HF」は、最新の感染症リスク軽減ソリューションはもちろんのこと、ニューノーマル時代のスタンダードとなるデザインや機能を盛り込んだ製品としています。

私たちはこれからも、お客さまの声を取り込んだ製品・サービスをスピード感をもって開発・提供することで、ニューノーマル時代の人・ビル・社会に新たな価値を提供し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

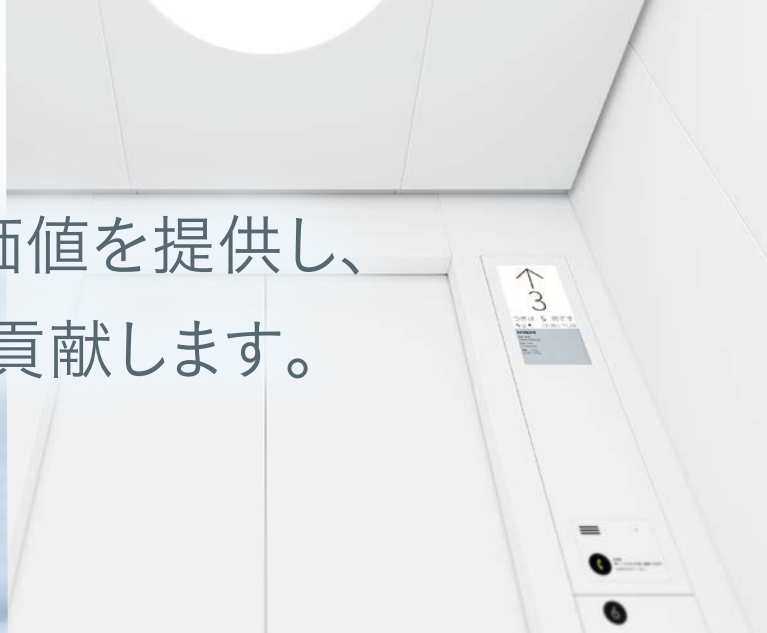
「人・ビル・社会」に新たな価値を提供し、 持続可能な社会の実現に貢献します。

● ビルシステム事業概要 (日立グループ連結)

売上収益	昇降機保全台数
6,791億円 *1	70万台超 *2
従業員数	昇降機累計納入台数
約 41,000人 *2	110万台超 *2
事業拠点数	
約 1,500拠点 *2	

*1 2021年3月期

*2 2021年3月時点



ビルシステム事業を通じたSDGsへの貢献



現在、世界では、都市化や高齢化、気候変動など、さまざまな変化に伴い、新たな社会課題が生まれています。その中で、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」を達成するための取り組みが世界各地で始まっています。

私たちは、「人・ビル・社会」に新たな価値を提供し、持続可能な社会の実現に貢献することを企業理念として、SDGsの17目標の中で特に大きく達成に貢献できる目標として3つを特定し、継続的に取り組んでいます。



新たな都市に、
最先端の技術で
価値を提供する

撮影協力:SHIBUYA SKY

世界最高速エレベーター*を
生み出した最高水準の技術力



広州周大福金融中心

超高層複合ビル
「広州周大福金融中心」(中国)

地上1階から95階のホテルロビーまで440mを約42秒で移動。空気抵抗やレールのわずかな段差による振動、騒音などのさまざまな問題を解決し、日立の先進技術と豊富な経験・ノウハウを結集して、分速1,260mの世界最高速エレベーター*を実現しました。

ニューノーマル時代のスタンダードとなる
安全・安心・快適を提供

標準型エレベーター
「アーバンエース HF」

昇降機製品・サービスの開発コンセプトである「HUMAN FRIENDLY (HF)」を具現化した製品として、標準型エレベーター「アーバンエース HF」を開発しました。世界的なプロダクトデザイナーである深澤直人氏監修によるシンプルな新デザインと、感染症リスク軽減ソリューションをはじめとする先進の機能で、ニューノーマル時代のスタンダードとなる安全・安心・快適を提供します。

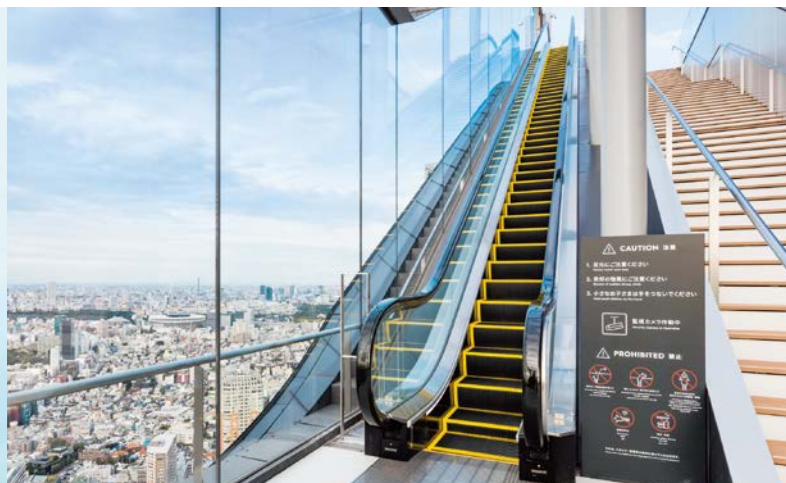


渋谷エリア最高峰のランドマークに
未体験の移動環境を。

渋谷スクランブルスクエア

新しい文化に出会い、世界に発信する「国際観光文化都市」をめざして、大きく変わろうとしている街・渋谷。建設ラッシュが続く駅周辺に、ひととき目を引く地上高約230mの大規模複合施設「渋谷スクランブルスクエア」が完成しました。渋谷エリアで最高峰を誇る地上47階、地下7階建ての新たなランドマークは、多彩な施設やオフィスで構成され、日本で最大級の屋上展望空間を有する展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」は、非日常的な空間演出と、圧巻のパノラマビューで、大きな注目を集めています。

私たちは、屋外型として日本一の高さ*に位置するエスカレーターなど、「SHIBUYA SKY」内のすべてのエレベーター・エスカレーターをはじめ、商業施設、オフィスなどに76台の昇降機を納入し、展望施設における今までにない体験、ビル内そして渋谷エリアの安全・安心・快適な移動環境を支えています。



高品質を支える 最先端の研究・開発・設計・製造拠点

水戸事業所 (茨城)
大石工場 (中国)

長年にわたり、日立の昇降機の研究・開発・設計・製造を支えている水戸事業所。地上高213.5mのエレベーター研究塔「G1 TOWER(ジーワンタワー)」を有し、世界最高速エレベーター*を開発するなど、最先端のモノづくりをけん引しています。製品の設計から試作・評価、加工・組立、検査までを高い精度で行い、お客さまの信頼にお応えします。また、中国やタイなどの海外拠点と連携し、グローバル市場の多様なニーズにも対応しています。2020年1月には、中国・広州市にある大石工場に、世界トップクラスの高さ*となる地上高273.8mのエレベーター試験塔「H1 TOWER(エイチワンタワー)」を建設し、研究・開発体制をさらに強化しました。今後も、水戸事業所と大石工場をはじめとする海外拠点が連携し、技術・製品のイノベーションの実現、高品質な製品の提供をめざします。



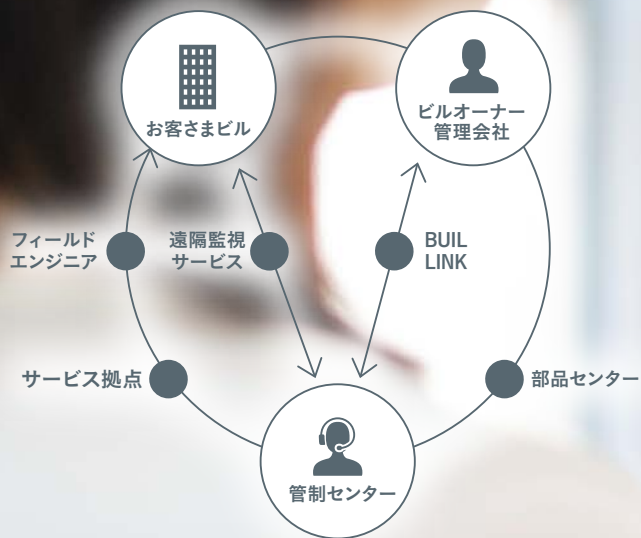
水戸事業所



日立電梯(中国)大石工場

*2021年8月時点、日立調べ

最先端のシステムと ビルの「安全」「安心」



24時間365日監視・対応するサービスネットワーク



「管制センター」を中核としてメンテナンス・サービスを支えるサービスネットワーク



東部管制センター（東京）

管制センター

東京と大阪、中国に配置された管制センターは、昇降機やビル設備機器の稼働状態を24時間365日遠隔監視しています。異常を早期発見し、故障の芽を未然に摘み取る予防保全に努め、万一、異常信号をキャッチした際は、即時にお客さまに連絡するとともに、最寄りのサービス拠点に出動指示を行い、フィールドエンジニアによる迅速な対応を支援します。

サービスネットワーク

全国約300カ所に配置した事業拠点で、日常的なメンテナンス業務はもちろん、緊急時においても迅速かつ的確な対応を図り、お客さまに安全・安心を届けます。

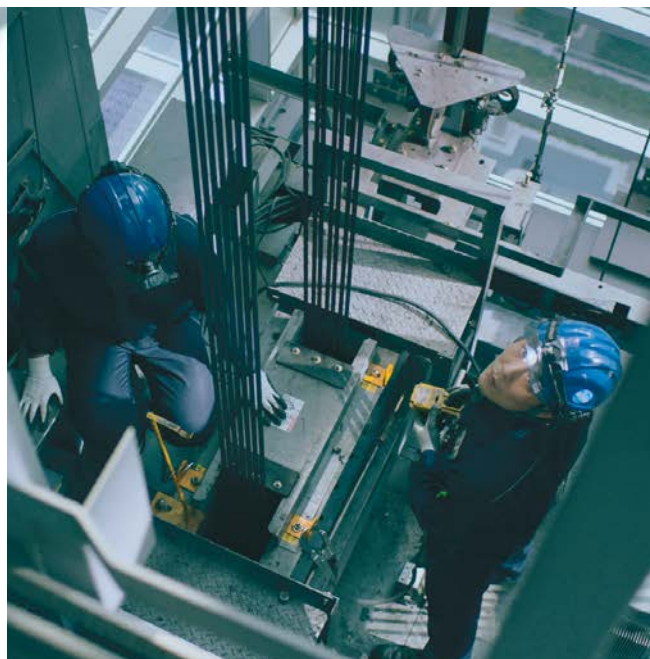
充実のサービス体制で 「快適」を守る

確かな安心を、いつも手のひらに。
スマートフォンでつながる先進のビル管理。

BUILLINK(ビルリンク) ビルオーナー・管理者向けダッシュボード

ビルのオーナーや管理者の皆さまにとって、地震や豪雨などの災害対策は大きな課題。「災害時にビル設備の状況を素早く確認したい」といったニーズの高まりに応じて開発したのが、ビル設備管理のダッシュボード「BUILLINK(ビルリンク)」です。スマートフォンやPCからシステムにアクセスすることで、所有・管理するエレベーターなどのビル設備の稼働状況、広域災害時の復旧状況をリアルタイムに確認することを可能にしました。また、台風の接近時に冠水による故障を防ぐためにエレベーターを上階に退避させる運行制御や、乗りかご内の液晶表示の設定変更など、ビル管理業務の効率化に貢献します。

私たちが長年にわたって培った高度な遠隔監視・データ分析技術をもとに、ビル管理の新しいスタイルを可能にする「BUILLINK」。今後、アジアを中心にグローバル展開を図り、新たな価値を提供していきます。



部品センター

旧機種から最新機種、電子部品から大型部品まで、数万点を東部および西部の部品センターで常時ストック。メンテナンスデータをもとに必要な部品を最寄りの各サービス拠点に配備しています。



東部部品センター(千葉)

広域災害時対策

万一の大規模地震や風水害などの広域災害に備え、平時から緊急態勢の整備・構築に取り組んでいます。BCP(事業継続計画)を継続的に強化するとともに、被災状況を迅速に把握し、復旧状況を一元管理できる広域災害復旧支援システムを構築、また、具体的な災害を想定した広域災害対応訓練を定期的に行い、BCPの有効性を確認しています。災害時のお客さまへのサービス低下を最小限にとどめ、迅速な救助・復旧対応を実現するため、全社を挙げて取り組んでいます。

本社広域災害対策本部



広域災害対応訓練

末長く使い続けられるビルであるために
「安全」「安心」「快適」をアップデートしていく

日本初の超高層ビルの半世紀に寄り添い
先進のリニューアルで新たな価値を届ける。

霞が関ビルディング

1968年に竣工した日本初の超高層ビル「霞が関ビルディング」。地上147m・36階建て、日本初となるビル内の病院や郵便局、敷地内の緑地など、先進的な開発コンセプトでビルの新時代を切り拓きました。ニーズを先取りしたりリニューアルを重ねることで“経年優化”が図られ、竣工から半世紀を経た現在でも約7,000人の就業者が働く先進のオフィス環境を有しています。

豊富なメニューでお客さまに応じたリニューアルを実現

ロープ式/油圧式エレベーターリニューアル

エレベーターは、長期間の使用によって、経年劣化や性能低下が進行します。近年、設置後20年以上が経過したエレベーターのリニューアル需要が高まる中、私たちは、お客さまに応じた最適なりニューアルが実現できるよう、豊富なメニューを用意しています。老朽化したエレベーターの機器を最新のものに更新することで、安全性はもちろん、快適性や利便性の向上を図ることができ、ビル全体の価値向上を実現します。今後も、さらなるメニューの拡充を図り、お客さまのニーズに応えていきます。



リニューアル前



リニューアル後

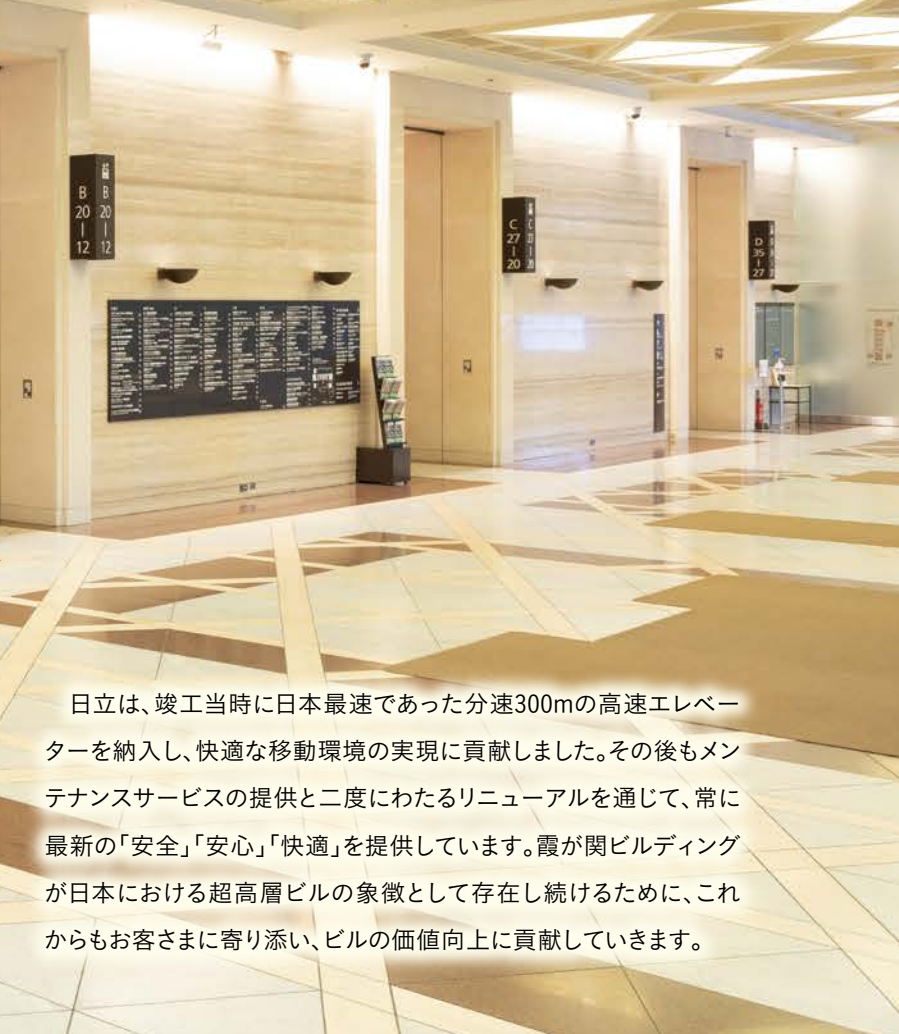


竣工時(1968年)



巻上機(リニューアル前)

巻上機(リニューアル後)



日立は、竣工当時に日本最速であった分速300mの高速エレベーターを納入し、快適な移動環境の実現に貢献しました。その後もメンテナンスサービスの提供と二度にわたるリニューアルを通じて、常に最新の「安全」「安心」「快適」を提供しています。霞が関ビルディングが日本における超高層ビルの象徴として存在し続けるために、これからもお客さまに寄り添い、ビルの価値向上に貢献していきます。

一人ひとりの声に耳を傾け、豊かな生活を提供する

「後付けエレベーター」プロジェクト (中国)

中国の都市部には、1980～90年代に建てられた古い団地が多数存在しています。約2億人が住むこの住宅は、長い年月を経て、昨今深刻な問題に直面しています。それは「エレベーターがない」ということ。居住者の多くは高齢化が進み、日々の外出さえも困難になる中、早急な対策を求める声が高まっていました。中国政府は、2017年、古い団地へのエレベーターの設置を優遇する政策を開始。これを

受けて、日立電梯(中国)は、2005年から行っていた後付けエレベーターの取り組みを強化するプロジェクトを立ち上げました。居住者一人ひとりの声に耳を傾け、さまざまな問題に真摯に向き合い、住民の生活改善に取り組んでいます。“真に必要なエレベーター”を追求し続けた努力が今、居住者の生活を豊かにし、一人ひとりの幸せにつながっています。



ビルを利用する すべての人に スマートなおもてなしを

一つ上のセキュリティとホスピタリティを
実現するカメラ活用ソリューション。

画像解析サービス

ビルに求められるもの。それは時代とともに変化していきます。例えば、セキュリティ。防犯用のカメラなどのセキュリティ機器は、いまやあらゆるビルに設置されていますが、これからのビルに求められているのは、セキュリティ性ととも、利用者の利便性を向上させることです。

私たちは、防犯目的以外にもカメラを有効活用することで、より安全・安心で快適・便利なビルでの生活を実現します。フラッパーゲートや入退室管理システムなどと、カメラを用いた顔認証を連携することで、高いセキュリティ性と、ハンズフリーでの快適なビル内移動を両立します。特定の人物をVIPとして登録し、スムーズにお迎えすることも可能です。

また、カメラで人流解析を行い、一定の人数がエレベーターホールに向かうことを検知したら自動的にエレベーターを呼び出すなど、次世代のスマートビルを実現するソリューションを提供していきます。



「セキュリティ」「エネルギー」「ファシリティ」のクラウド一括管理で、ビル管理業務を効率化

統合型ファシリティマネジメントソリューション「BIVALE(ビヴァール)」

私たちは、長年にわたり、セキュリティの強化、省エネルギー化、運営管理の効率化など、ビルオーナーや管理者の皆さまの悩みに応えるソリューションを提供しています。「セキュリティ」「エネルギー」「ファシリティ」をまとめて管理できるクラウドサービス「BIVALE」もその一つです。従業員の入退館時刻の把握や、設備

の状況確認・制御などを離れた場所のPC上からも行うことができ、ビル管理業務の効率化を図ります。迅速なセキュリティ設定の変更や、エネルギーの見える化なども可能で、管理者だけでなく利用者へのサービス向上も実現します。





感染症リスク軽減ソリューションでニューノーマル時代の安全・安心・快適を実現

サーマルカメラによる「発熱者検知システム」

新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、社会のあり方や人々の生活様式が変容し、ニューノーマルを見据えた社会課題が生まれています。ビル分野においても、共用設備に手を触れない形での移動や、人との接触機会の低減といった新たな感染リスク低減対応が求められています。日立のサーマルカメラによる「発熱者検知システム」は、統合型ファシリティマネジメントソリューション「BIVALE」と連動させることで、サーマルカメラ運用時の課題となる現場に常駐する担当者人数の縮減を可能とし、またビル利用者の感染リスク低減に貢献します。



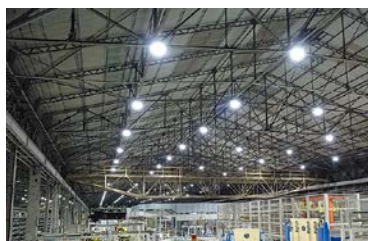
持続可能な社会の実現をめざして、企業活動全体で貢献していきます。

環境へ

事業を通じて環境問題の解決をめざしています。

私たちは、日立グループが策定した環境経営の枠組みに従い、昇降機の設計に「日立グループエコデザインマネジメント指針」を活用した環境配慮設計(エコデザイン)を適用するなど、製品やサービスへの環境配慮を実践しています。また、その活動と成果を日立が評価する「エコファクトリー&オフィス」に、私たちの事業所が認定されています。これからも持続可能な社会の実現に貢献するために、積極的な取り組みを行っていきます。

[エコファクトリーセレクト]
水戸事業所（茨城）



照明設備

高効率照明器具への更新(LED化)をはじめ、棟屋上に太陽光発電設備を設置し、省エネルギー化を進めています。

[エコオフィスセレクト]
亀有総合センター（東京）



太陽光発電設備

蓄電池設備

太陽光発電や蓄電池設備などを設置し、エネルギーの効率利用を実践しています。

[エコファクトリーセレクト]
大石工場（中国）



水循環の効率的な利用

製造工程で出るすべての排水を再利用可能にするシステムにより、水道水の節約を可能にしました。

社会へ

真に豊かな社会の実現に向けて、多彩な活動を展開。

お客さまへ、製品・サービスの利用者へ、そして地域社会全体へ。私たちは、「誠実」「信義」を基本として積極的な社会貢献活動を行い、良識ある企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて尽力します。

フィリピン慈善事業
「クリスマス・イベント」



日立エレベーターフィリピン社では、フィリピンの子どもたちを保護する施設を運営するThe Children's Joy Foundation, Inc. (CJFI)と協力してクリスマスイベントを開催。学用品を配布、食料や電化製品の寄付を行いました。

安全キャンペーン
「エスターくん劇場」



エレベーター・エスカレーターの正しい乗り方を学ぶ「エスターくん劇場」を全国で開催。1986年の開始以来、お子さま・保護者の方を中心に約21万人にご参加いただいています。

盲導犬育成支援活動
「マッチング・ギフト制度」



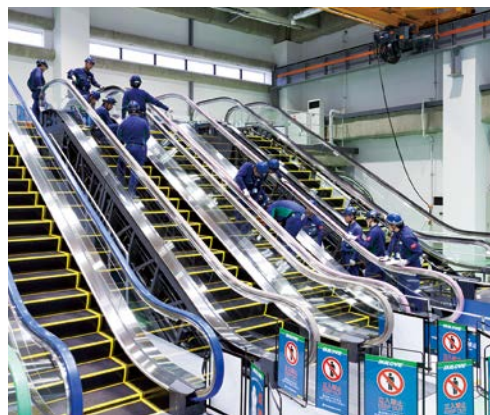
1997年から盲導犬の育成支援を中心に「マッチング・ギフト制度」を展開。趣旨に賛同した社員(会員)と当社が毎月同額(各100円)の拠出金を出して寄付活動を行っています。

充実の設備とカリキュラムで、未来のプロフェッショナルを育成します。

人財開発センター

実際の建物と同様の環境で、実践的な技能を習得。

実践的な技能の習得と研さんができるよう、各種設備機器の実機を活用して実際の建物と同じ作業環境を整備。目的別・レベル別に体系化した多様なプログラムにより、各種プロフェッショナルを育成しています。世界で活躍できる人財を育成するグローバル研修センターでは、海外規格の昇降機など実習設備を備え、世界基準の技術を習得することが可能です。また2019年には、VR(Virtual Reality)技術を活用した体感型の教育システムを開発し、正式運用を開始。グローバルな展開をめざしています。



グローバル研修センター(東京)

アジアトレーニングセンター (タイ)

アジア・中東地域における昇降機の品質と安全を守る。

アジア・中東地域の昇降機事業に携わる技術者向けの教育施設「アジアトレーニングセンター」は、アジアにおける日立の昇降機の施工・保全技術と、安全管理に関する教育センターとして、各国の技術者の育成を図っています。アジア・中東地域における業務レベルをより一層向上させ、日立が最も大切にしている品質と安全の提供を今まで以上に確実なものにしていきます。



未来へ向けて進化する“実感空間”

日立ビルソリューション-ラボ (東京)(大阪)



SolutionLAB.
日立ビルソリューション-ラボ

「日立ビルソリューション-ラボ」は建物に新たな価値を創出するためのソリューションを体験いただく場です。「昇降機」「メンテナンス」「ビルソリューション」をテーマに、先進技術で開発された製品やサービスを普段見ることのない部分まで分かりやすく紹介します。

History

ビルシステム事業の沿革

日立の昇降機開発の歴史は戦前に始まり、常に時代を見据えて、

昇降機・ビルソリューションを進化させ続けてきました。

その90年以上にわたる歴史を基盤として、

これからも日立は安全・安心・快適にグローバルな社会インフラづくりに取り組んでいきます。

1972

日立ビルディングサービス株式会社から日立エレベーターサービス株式会社に社名変更。
日立エレベーターエンジニアリング(シンガポール)社設立。

1974

新宿超高層ビル群に分速540mのエレベーターを連続納入。(07)

1979

中央部品センターを開設。



Network

国内&海外主要グループ会社・代理店

- 製造拠点
- 日立グループ会社
- 関連会社・代理店
- <>内は所在地を表す

日本

- 株式会社日立製作所 ビルシステムビジネスユニット
- 株式会社日立ビルシステム
- 株式会社日立ビルシステムエンジニアリング
- 株式会社日立ビルシステムビジネスサポート
- 株式会社沖繩日立

東アジア

- 日立電梯(中国)有限公司<中国 広州>
- 日立電梯(広州)自動扶梯有限公司<中国 広州>
- 日立電梯電機(広州)有限公司<中国 広州>
- 日立楼宇技術(広州)有限公司<中国 広州>
- 日立電梯(上海)有限公司<中国 上海>
- 日立電梯(天津)有限公司<中国 天津>
- 日立電梯(成都)有限公司<中国 成都>
- 日立電梯工程(香港)有限公司<香港 九龍>
- 永大機電工業股份有限公司<台湾 台北>

東南アジア

- Hitachi Elevator (Cambodia) Co., Ltd. <Cambodia, Phnom Penh>
- PT. Hitachi Asia Indonesia <Indonesia, Jakarta>
- Hitachi Elevator Laos Co., Ltd. <Laos, Vientiane>
- Hitachi Elevator Engineering (Malaysia) Sdn. Bhd. <Malaysia, Kuala Lumpur>
- Hitachi Elevator (Myanmar) Co., Ltd. <Myanmar, Yangon>
- Hitachi Elevator Philippines Corporation <Philippines, Manila>
- Hitachi Elevator Asia Pte. Ltd. <Singapore>
- Hitachi Elevator (Thailand) Co., Ltd. <Thailand, Bangkok>
- Siam-Hitachi Elevator Co., Ltd. <Thailand, Chonburi>
- Hitachi Elevator Vietnam Co., Ltd. <Vietnam, Ho Chi Minh City>

南アジア

- Hitachi Lift India Pvt. Ltd. <India, New Delhi>
- Lanka Elevator Engineering (Pvt) Ltd. <Sri Lanka, Rajagiriya>

中東

- Kuwaiti Jordanian Co. for Elevators & Services L.L.C. (Authorised distributor of Ahmadiyah Contracting & Trading Co. K.C.S.C.) <Jordan, Amman>
- Ahmadiyah International Elevator Co. W.W.L. <Kuwait, Kuwait City>
- Universal Engineering Services L.L.C. <Oman, Muscat>
- Petrobuild International Elevators Co. W.L.L. <Qatar, Doha>
- Hitachi Elevator Saudi Arabia Limited. <Saudi Arabia, Jeddah>
- Al-Futtaim Engineering L.L.C. <U.A.E., Dubai>

欧州

- Temple Lifts Limited<United Kingdom, London>

オセアニア

- Hitachi Australia Pty. Ltd.<Australia, Sydney>

1991

日立エレベーターサービス株式会社から株式会社日立ビルシステムサービスに社名変更。タイにサイアム日立エレベーター社設立。

1995

中国に広州日立電梯有限公司設立。

1996

株式会社日立ビルシステムサービス、日立東ビルシステム販売株式会社、日立西ビルシステム販売株式会社の3社を合併、社名を株式会社日立ビルシステムに変更。

1999

日立ビル施設エンジニアリング株式会社を合併。(存続会社:株式会社日立ビルシステム)

2010

水戸事業所に高さ世界一(当時)の地上高213.5mのエレベーター研究塔「G1 TOWER」が完成。(10) シンガポールに日立エレベーターアジア社設立。日立電梯(上海)有限公司に地上高172mのエレベーター研究塔が完成。(11)

2011

日立エレベーターフィリピン社設立。

2012

東京スカイツリー® に高速・大容量エレベーターを納入。(12)

2014

株式会社日立製作所より株式会社日立ビルシステムに国内昇降機事業を移管。人財開発センターにグローバル研修センターを開設。

2015

株式会社エレテクノス、株式会社ビルテクノスを合併し、株式会社日立ビルシステムエンジニアリングを設立。日立エレベーターミャンマー社設立。

2016

日立エレベーターカンボジア社設立。日立エレベーターベトナム社設立。

2017

タイにアジアトレーニングセンターを開設。英国のテンブルリフツ社を買収。日立エレベーターサウジアラビア社設立。

2018

日立エレベーターラオス社設立。

2019

広州周大福金融中心に世界最速*となる分速1,260mの超高速エレベーターを納入。(13) *2020年3月時点、日立調べ

1980

1990

2000

2010

2020

1981

東京研修所(現・人財開発センター)を開設。

1985

東京/大阪に管制センターを開設。

1987

日立水戸エンジニアリング株式会社設立。

2003

日立ビルソリューションラボ(東京)を開設。六本木ヒルズ森タワーにダブルデッキエレベーターを納入。(08)

2007

広州日立電梯有限公司が日立電梯(中国)有限公司に社名変更。日立ビルソリューションラボ関西(大阪)を開設。

2008

日立リフトインド社設立。上海環球金融中心に世界最大級の超高速ダブルデッキエレベーターを納入。(09)

2020

日立電梯(中国)有限公司に世界トップクラス*の地上高273.8mのエレベーター試験塔「H1 TOWER」が完成。(14) *2020年3月時点、日立調べ

日立水戸エンジニアリング株式会社を合併。(存続会社:株式会社日立ビルシステム) 株式会社日立製作所が永大機電工業股份有限公司を連結子会社化。

08



六本木ヒルズ森タワー

09



上海環球金融中心

10



G1 TOWER

11



日立電梯(上海)エレベーター研究塔

12



東京スカイツリー®

13



広州周大福金融中心

14



H1 TOWER

Company Profile 会社概要

- **名称** 株式会社日立ビルシステム ● **本社所在地** 〒101-8941東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地(ワテラストワー) 電話03-3295-1211(大代表) 〒120-0002東京都足立区中川四丁目16番29号(亀有総合センター) 〒312-8506茨城県ひたちなか市市毛1070番地(水戸事業所) ● **設立** 1956年10月1日
- **資本金** 51億509万1千円(全額 株式会社日立製作所出資) ● **代表者** 代表取締役 取締役社長 光富 真哉 ● **売上高** 2,607億円(2020年度)
- **従業員** 約9,000名(2021年3月時点) ● **事業内容** 1.エレベーター、エスカレーター、駐車場設備、冷凍空調装置、電気設備、自動ドア、その他ビル設備に必要な機器の製造、販売、据付、保守、改造修理、更新及び設計 2.各種ビル設備の監視、制御及びビル管理 3.土木及び建築工事業 4.冷凍空調装置並びにそれらの運転制御盤、遠隔監視装置、冷媒回収装置の製造 5.建築物の設計及び監理 6.ビル設備機器、防犯・防災機器及び駐車場設備の賃貸並びにリース 7.不動産賃貸業 8.データベース、ダイレクトメール、テレマーケティング、インターネットを構成要素とするダイレクトマーケティング手法を用いたセールスプロモーションの企画・立案・実践代行及び各種市場調査 9.警備業 10.工業所有権及びノウハウの実施許諾 11.前各号に関連又は附帯する一切の事業



日立ビルシステムブランドチャンネル

 株式会社日立ビルシステム

〒101-8941 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地(ワテラストワー)
電話 03-3295-1211(大代表) www.hbs.co.jp

